NEW あしながファミリー

168号

2021年（令和3年）2月10日

編集責任者　玉井　義臣

一般財団法人 あしなが育英会　TEL (03) 3221-0888

〒102-8639　東京都千代田区平河町2-7-5　砂防会館本館4階

仲間との思い出の夏

3泊4日の「大雪のつどい」最終日、先輩と握手を交わす百南さん（写真右／2019年8月・北海道旭川市で撮影）。「コロナが収まったら、またつどいでみんなと会いたいです」

なかま

徳永（とくなが）　百南（ももなみ）さん（18）　北海道・高校3年

「大学合格おめでとう！」「ありがとうございます！」。ビデオ通話をつないですぐにお祝いの言葉をかけると、画面越しに笑顔がはじけた。

百南さんと初めて会ったのは、2019年の「大雪のつどい」。北海道の高校生を対象にしたあしながのサマーキャンプだ。当時高校2年生だった彼女は、所属している放送部について教えてくれた。「顧問の先生がすごく熱心に指導してくれて。今は全道大会に向けて特訓中です」。

努力が実り、全道大会では5位入賞。2020年にトライアル参加した全国高等学校文化連盟の大会では、朗読部門で最高得点を獲得した。「昔は緊張するとひざが震えてたけど（笑）、3年間で度胸がつきました」。朗読したのは島本理生さんの小説『ナラタージュ』。2分の持ち時間のなかで感情を爆発させ、練習の成果を出し切った。

胸に響いた先輩の言葉

あしなが奨学金を知ったのは高校入学前。最初は自分が対象になるとは思っていなかった。父は9年前に拡張型心筋症を患い、人工弁を入れる手術をした。治療のためフルタイムで働くのはむずかしいが、家族や親戚に手伝ってもらいながら自営の仕事を続けている。

「経済的な余裕はないけど、もっと大変な子はたくさんいるし……。それで大学奨学生の先輩に、『私は両親が生きてるから、弱音を吐いちゃいけない気がする』って言ったことがあるんです」

そのとき、先輩から「人と比較せずに、自分自身がつらいって思ったときはそう言ってもいいんだよ」と言われ、気が楽になった。「家庭の状況ってなかなか共有しづらいけど、ここには打ち明けられる仲間がいるんだなってほっとしました」。

一人っ子の百南さんは、両親との向き合い方に悩んだ時期もあったという。「父親・母親という役割で見ると、つい『こうしてほしい』という理想を押し付けてしまう。だから今はひとりの人間同士として、自分の意見や感覚とちがっても、お互いを受け入れるようにしてます」。

将来の選択肢が広がった

「休校中は友達とお散歩する以外は、ひたすら家で課題をやってました。学校祭も中止になったし、遊びにいく機会も減って寂しかった」

高校最後の年に新型コロナウイルスが流行したためにあきらめたことは多い。一方で、コロナ期間だからこその利点もあった。大学のオープンキャンパスがオンライン開催に切り替わったことで、交通費や時間の制約を受けずに大学について知る機会が増えたのだ。

気軽に道外の大学の情報を調べたり、模擬授業をWEBで受けたりするうちに志望校が決まり、昨年11月に総合型選抜入試を受けて無事合格した。「あしなががなかったら高校にもちゃんと行けていたかわからないし、大学なんて考えられなかった。選択肢が広がって感謝してます」。

今春からあしなが心塾（東京都日野市）に入塾し、都内の大学の心理学部に通う。将来の夢は公認心理師。

「人の心によりそって、相手が答えを出すお手伝いをする仕事。まずは東京でいろんな人と関わりながら、国家資格合格をめざして学びを深めたいです」

（新元愛美記者）

コロナに負けず大学合格　春から心塾生

今号の紙面

年越し緊急支援金　奨学生家庭からのお礼状　（3～7面）
奨学生の年賀状・写真・イラスト 大特集　（8～14面）
あしながさんから応援メッセージ　（16～17面）
喪失と癒しの物語　本会から2冊刊行　（19面）

共生

生きる基本はやっぱり「自助」――玉井じいさんの教育論 I

編集長　玉井　義臣

いささか遅くなってしまいましたが、ご支援者の皆様にご報告があります。本会が昨年 12 月、全奨学生に「年越し緊急支援金」を給付したことをお聞きになった上皇・上皇后両陛下から、昨年 12 月 22 日付で、お手紙とご支援を頂戴いたしました。おふたりには神戸レインボーハウスにお越しいただくなど 40 年にわたり、遺児に寄り添っていただきました。ご心配をおかけしたことを申し訳なく思うと同時に、心から感謝を申し上げたいと存じます。

2001 年 4 月 24 日、神戸レインボーハウスをご視察になり、阪神・淡路大震災遺児らを励まされる天皇・皇后両陛下（当時）。おふたりは親を亡くした子どもたちに長く寄り添い、見守ってくださっている

さて、私はこの 2 月 6 日で 86 歳になりました。親を亡くした子のために高校進学の奨学金制度を創設したのは 1969 年 10 月です。最初の高校生は 495 人でした。奨学金の月額は 5,000 円と決めました。当時の公立高校の 1 か月の授業料は 800 円でしたが、学校にかかる費用だけでは高校に進学することはできません。服や靴や電車賃や弁当代なども用意してあげないと無理です。11 人きょうだいの末っ子で、義務教育だけで終った兄や姉の無念を知っている私は、「遺児には必ず高校は出てほしい」と願い、当時としては高い奨学金額を設定しました。

この高校生が卒業する年に大学奨学金の制度を設けました。しかし、当時、国や企業はほとんど頼れず、あしなが奨学金は自前で集めなくてはなりませんでした。親を亡くした子どもが教育を受けようと思うのなら、新聞配達でもして夜間高校や夜間大学へ行かなければ競争から脱落するという厳しい時代でした。私は奨学金のためのお金集めの中心は街頭募金しかないと決意し、大学 1 年生に街頭に立ってもらいました。ところが、これが極めて不評で、奨学生を辞めるものまで出てきました。

大学生による街頭募金は、お金集めだけが目的ではありませんでした。「自助」の大切さを知ってほしい気持ちもありました。今、国会論議などで「自助」は批判の対象になっているようです。弱者切り捨て、弱肉強食をイメージするのかもしれません。しかし、私のいう「自助」は違います。サミュエル・スマイルズ著『自助論』を若い時に読んで触発されて以来、ずっと大切にしてきた言葉です。自分が理想、目標、志を立て、それに向って不断の努力をすることです。人生の基盤をつくる時、そこはサボれません。スマイルズは「自分が自分に対する最良の支援者であれ」と説いています。

年 2 回の街頭募金は、奨学生本人に立ってもらうことで、普段は自動で振り込まれるお金の重みを知り、「いつか自分も支える側に」という意欲を持って、日々の学業に励んでほしいという願いも込めた伝統行事です。心にかかえている悩みや葛藤、熱い想いを自らの言葉で伝え、人の心をうつスピーチをする。これは社会に出るうえでも役立つ能力です。初期の大学奨学生の OB・OG たちも定年を迎え、初老になり始めました。今、彼らは当時の活動をどう振り返るでしょうか。

あしなが育英会はお金を配るだけの団体ではない。いつか奨学生が独り立ちできるよう、世間を生き抜く力を育てるための団体だと私は考えています。

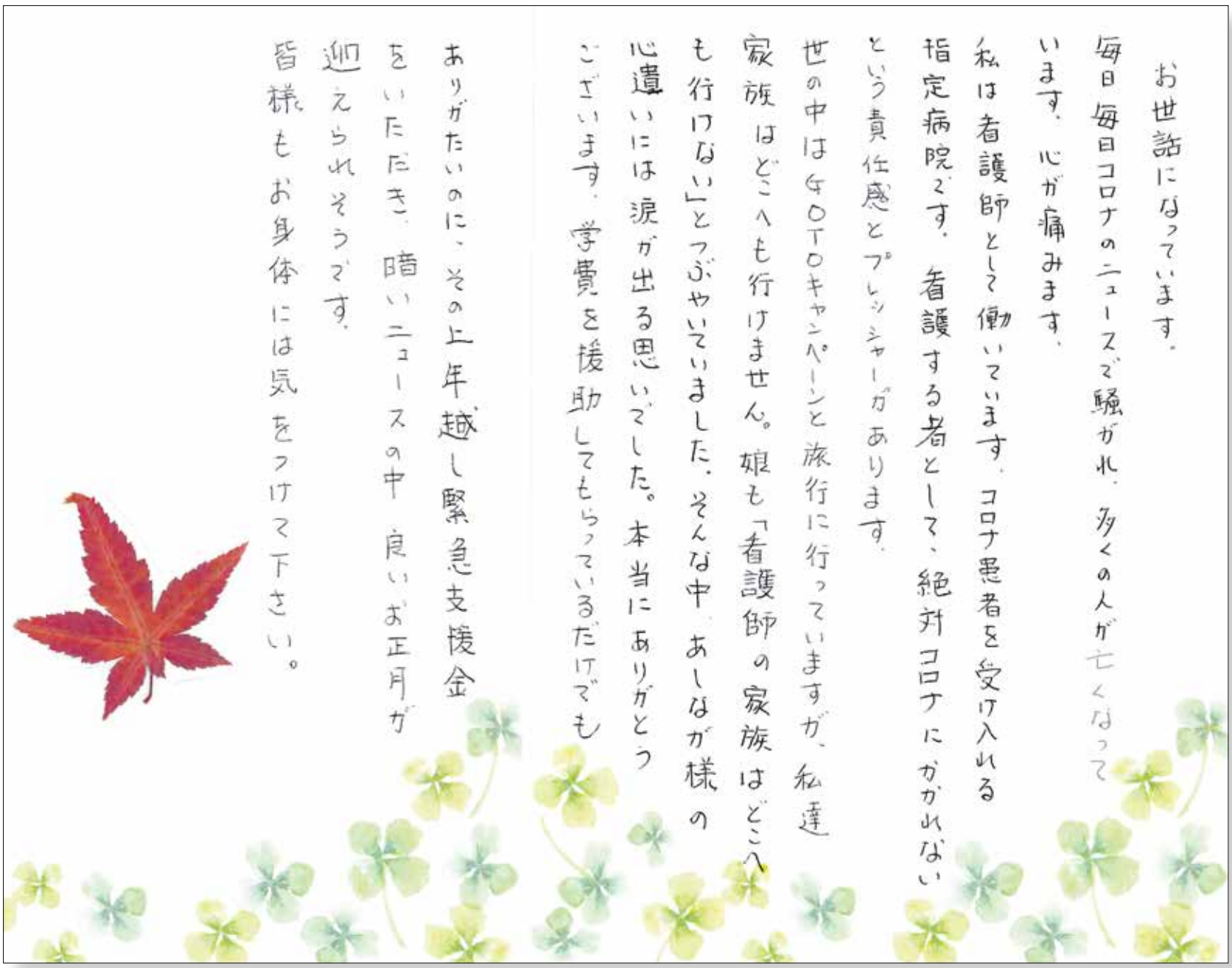
奨学生諸君、がんばるんだよ。お母さんによろしく !!　(2021.2.9 記)

「年越し緊急支援金　本当に助かりました」

奨学生家庭からお礼状

「年越し緊急支援金は私たちの希望の光となりました」「予想していなかった送金に涙が止まりませんでした」――。

本会は昨年12月、コロナ禍でも希望を持って新年を迎えてほしいと願い、「年越し緊急支援金20万円」を全奨学生7,591人へお届けしました。すると奨学生家庭から、このような感謝の言葉が、お手紙やメールで次々と届きました。機関紙編集室では「あしながさんに、ぜひこの言葉をお伝えしなければ」と考え、保護者の方たちへ機関紙への掲載をお願いしたところ、「ぜひ載せてください。なんとかして、あしながさんに感謝の気持ちをあらわしたいと思っていました」「私たちにとって命のお金でした。そのことを、どうかお伝えください」といったお返事をいただきました。年越し緊急支援金が、奨学生家庭の確かな支えになったことのご報告として、お礼状の一部をご紹介いたします。（3～7面）



お世話になっています。
毎日毎日コロナのニュースで騒がれ、多くの人が亡くなっています。心が痛みます。
私は看護師として働いています。コロナ患者を受け入れる指定病院です。看護する者として、絶対コロナにかかれないという責任感とプレッシャーがあります。
世の中はGOTOキャンペーンと旅行に行っていますが、私達家族はどこへも行けません。娘も「看護師の家族はどこへも行けない」とつぶやいていました。そんな中、あしなが様の心遣いには涙が出る思いでした。本当にありがとうございます。学費を援助してもらっているだけでもありがたいのに、その上年越し緊急支援金をいただき、暗いニュースの中、良いお正月が迎えられそうです。
皆様もお身体には気をつけて下さい。

◆◆◆

緊急給付、本当に本当にありがとうございます。

今日も仕事が決まらず、重い足取りだったのに、しばらく玄関に封書を持ったまま立ち尽くしました。本当に本当にありがとうございます。大切に使わせていただきます。ありがとうございます。

◆◆◆

この度は、20万円という大金を振り込んで頂き本当にありがとうございました。娘の革靴がボロボロだったので新しい靴を購入しました。娘もわが家の家計を理解しているので、こんな靴でも、ガムテープを貼って履いていました。大切に使わせて頂きます。本当にありがとうございました。感謝の気持ちで一杯です。

年越し緊急支援金　奨学生家庭からお礼状

「いつか私たち親子も社会に貢献できる人になろう」と話しています

あしなが様

拝啓　寒冷の候　あしなが様におかれましては、このコロナ禍にあっても苦境にも負けず益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

今回、「年越し緊急支援金」の給付、本当にありがとうございました。今年、長女の大学受験を迎え、受験料や試験会場までの交通費や宿泊代などが嵩む中、私のボーナスの減額は決定しており、不安を抱えておりました。（長男：あしなが様よりご支援いただき昨年大学一年生になりました。長男の受験で思いの外お金が必要となり貯金が減っていたため、余計に不安を感じていたのだと思います）

そんな中での「緊急支援金」は、私たちの希望の光となりました。新年を新たな気持ちで、たくさんの方々にご支援いただいている今に感謝して迎えることができました。

お礼のお便りを早く郵送すべきでしたが、大変おそくなってしまい申し分けありません。あしなが様のあたたかいお心遣いに心から感謝申し上げます。

私事で申し分けありません。私の主人は自死でした。私が当直で不在の時の出来事で発見者は子ども達でした。それぞれの葛藤を抱える中での生活は悲しく苦しい日々でした。父を亡くして2年後、高校生になった長男にある女友達が「お父さん大嫌い、話もしたくない。だから最近無視してる」と言ったそうです。長男は思わず「お父さん悲しいだろ。お父さんは娘が可愛いだけだよ。話かけてやってよ。俺ん家、お父さんが亡くなったから妹たちがいつもお父さんと話がしたいって言ってる。話せる時にたくさん話をした方がいいよ。」と伝えたところ、翌日その女友達が「昨日はありがとう。お父さんと話したよ。お父さんめっちゃうれしそうだった」と言ってくれたそうです。その出来事は長男の心を大きく変化させてくれたようでした。長男が「俺にも出来ることがあるのかもしれない。経験した人だけが伝えれることもあるんだよね」と話してくれ、少しずつ元気になっていきました。

子どもたちの変化を見て、私にも出来る事はないか…と考え、いつか何かの役に立つかもしれないと放送大学で心理学を学び始めました。

このように、心にも生活にも余裕が生まれたのは、あしなが様からのご支援のおかげです。以前のように笑顔を見せてくれる3人の子どもたちと暮らせる毎日に幸せを感じ、あしなが様のご厚意に感謝して、いつか私たち親子4人が何らかの形で未来の子ども達や社会に貢献できる人になろうと話をしています。

このような状況ではありますが、あしなが様には健やかにお過ごしになられますようお祈りいたします

敬具

◆◆◆

緊急支援金ありがとうございます。母が脳梗塞で入院し、パートも1日減らされて気が滅入っていたところ、封を開けた時はうれしかったです。贅沢なんてすることも無く、娘には母子家庭だからお友達の家みたいなことはしてあげれないの、と言い聞かせて不憫な思いをさせていますが、娘はわかってくれていると思います。今日、クリスマスケーキを予約します。クリスマスイブ、娘が喜ぶことと思います。ありがとうございました。

◆◆◆

昨日ゆうちょ銀行に20万円の給付金をお振込みいただきまして大変ありがたく感謝しております。

親子共々、おかげさまでクリスマスや年末、お正月を温かく迎えることができますことを本当にうれしく思っております。私達の声を聞いてこのような結果を出していただき大変ありがとうございました。

今、世の中は新型コロナウイルスによる悪影響で冷えきっている中、温かいお気持ちをありがとうございます。大切に大切に使わせていただきます。本当にありがとうございました。

◆◆◆

入金を確認いたしました。コロナ陽性者が出て病院実習も中止、濃厚接触者として自宅待機のためバイトも出来ずに途方に暮れていたので、本当に助かりました。いつもあしながさんに助けていただいて感謝の気持ちでいっぱいです。娘が卒業したら僅かでも自分があしながさんになりたい、と思いました。

◆◆◆

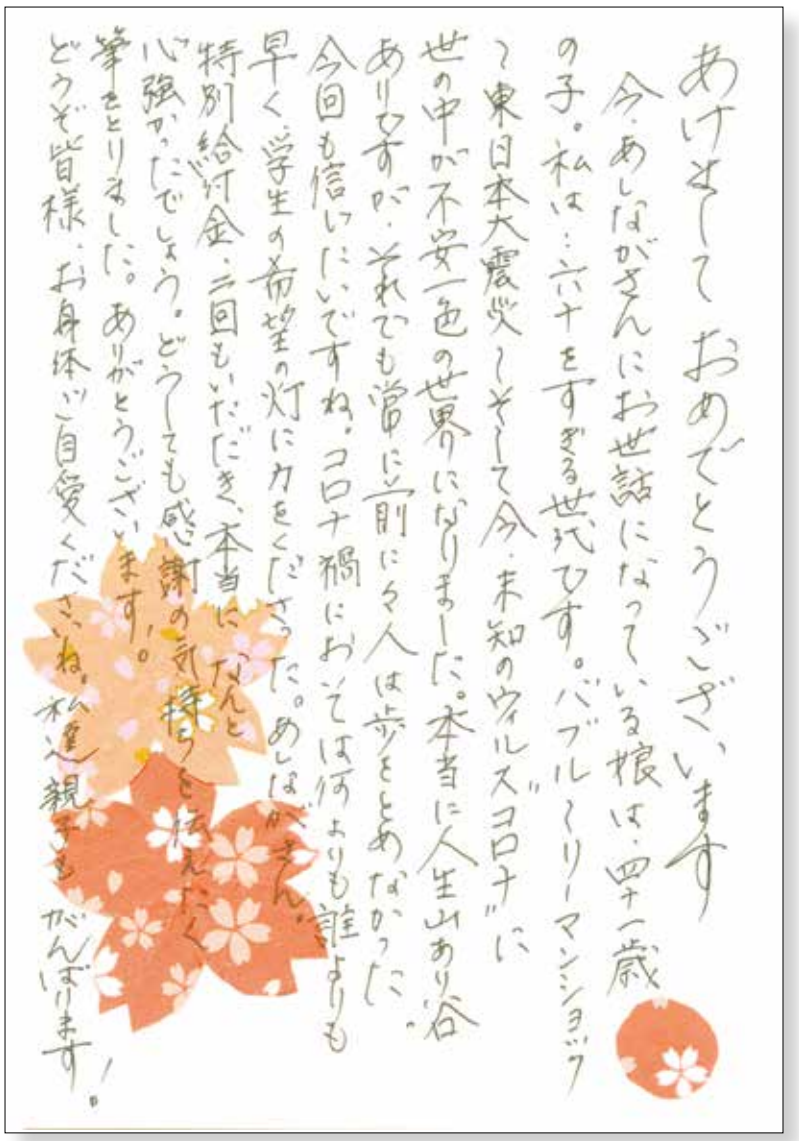
うちよりも、もっと大変なお宅がたくさんある中、心苦しい気持ちもありますが、着金したお金をさっそく使わせていただきました。借金を重ねて年末年始どころではなかったのに、本当に有難いです。

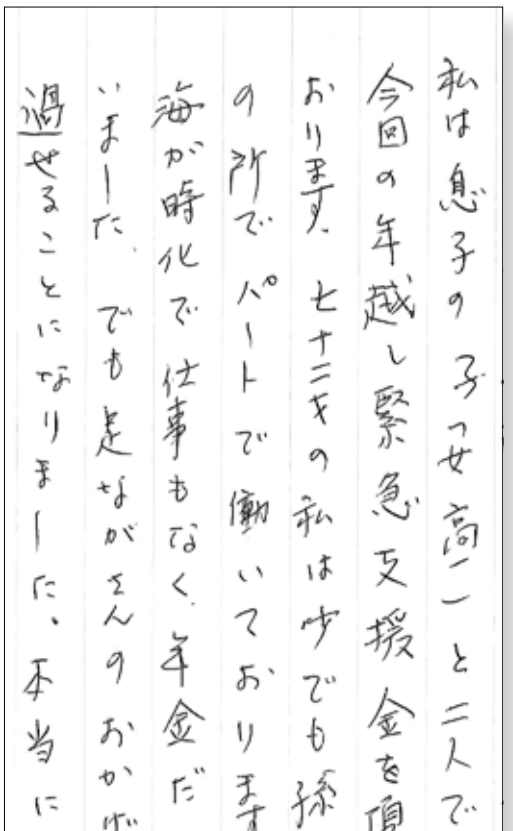
なるべく少しずつ大事に使いたいと思います。

◆◆◆

命のお金をありがとう

年越し緊急支援金　奨学生家庭からお礼状




私は息子の子つせ高一と二人で暮らしております。
今回の年越し緊急支援金を頂いて、とても感謝しております。七十二才の私は少しでも孫に何かをと思い、
の所でパートで働いております。でも十一月十二月と
海が時化で仕事もなく、年金だけで年越すことになって
いました。でも是ながさんのおかげで孫に不自由なく
過ごすことになりました。本当に涙が出ました。感謝です。

◆◆◆

本当にこの度は命のお金、ありがとうございました。収入はなんとか保っておりますが、母親（奨学生本人の祖母）が亡くなり葬儀費用など出費がかさみ、大学受験のための貯金を切り崩していたところでしたので、とても助かります。受験に向けてお金の心配をさせずに勉強させてあげたいので、いつも助けて頂き感謝しております。

◆◆◆

現在、私以外の子供と孫がコロナに順番に感染しており自宅療養中、私も濃厚接触者となり職場から自宅待機を言い渡されております。休業補償がなく、３週間の無給はとても苦しく困っておりました。そこへ今回のお手紙。６月にも支援金をいただいて休業補填以上の支援をしていただいたのに、今回も…。涙が出るほどうれしく、取り急ぎお礼のメールをさせていただきました。

◆◆◆

高校２年の息子を持つ父親です。この度は、年越し緊急支援金をいただきまして、本当にありがとうございます。息子ともども、本当に感謝しております。本人は国公立大学現役合格を目指しております。進学のための学習費用や受験費用に使わせていただきます。

◆◆◆

娘は部活、勉強があり平日アルバイトができません。でも家のことも考え、年末年始にできる短期バイトとして神社の巫女のバイトをやる予定です。仕事をしている兄弟達も給料から援助してくれますが、今回の支援金は年末年始を迎えるにあたりとても助かりました。

主人が亡くなり、私の兄も亡くなり、娘が看護師を目指すのも、その理由の一つです。

◆◆◆

今回の年越し緊急支援金も、感謝の言葉を尽くせないほどありがたく、涙が出ます。私達の気持ちを理解してくださり、優しく寄り添ってくださって感謝の気持ちでいっぱいです。大切に使わせていただきます。きっと子供たちが次の世代につないでいってくれることと思います。皆様もコロナや感染症等、お身体に気をつけてお過ごしくださいませ。

◆◆◆

とても温かく力強いメッセージをありがとうございます。そして支援金をいただけるなんて、毎日夜中まで家計簿とにらめっこしていた私は、精神の安定を取り戻すことが出来ました。

よく考えてお金の種類を見極めながら、大切に使わせていただきます。

◆◆◆

いつも支えてくださって、感謝しかありません！　コロナ禍で大学に行けない上に、学費を払わなければならない憤りは子供含め、私も感じておりました。

大学からはほとんど給付がなく、この先どうなるんだろうと不安でした。でも皆同じ思いでいるんだなとあしながの新聞を拝見して思います。

◆◆◆

緊急支援金の着金を確認しました。前回に引き続きのご支援を、大変感謝しております。

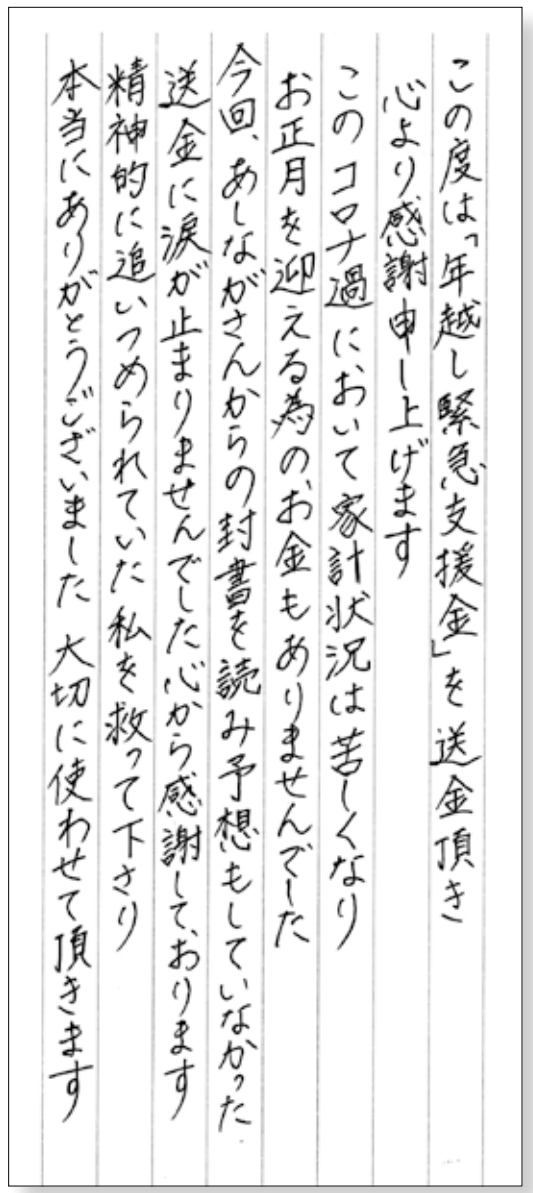
派遣切りにあい、現在は就職活動中のため今年のクリスマスのプレゼントをどうしようかと悩んでおりました。おかげさまで、あたたかいコートを買ってあげることができました。本当にありがとうございました。

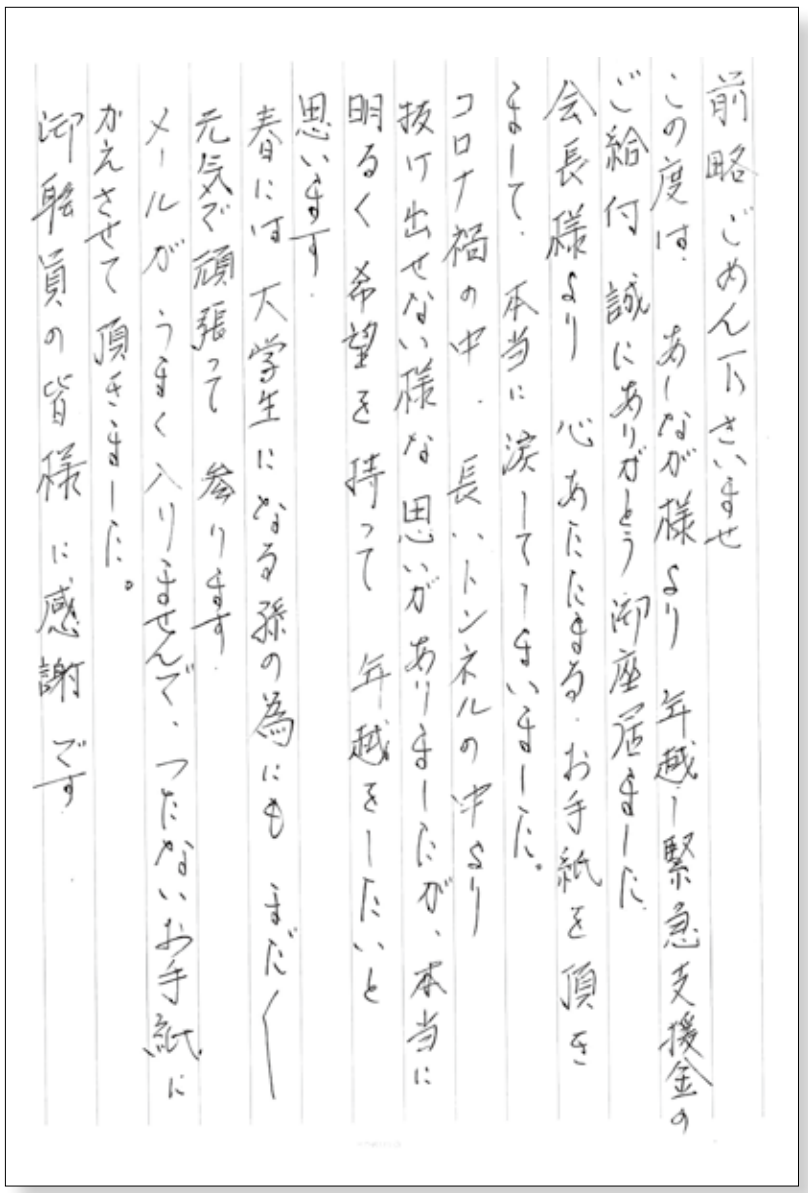
なんとか無事に年も越えられそうです。早く勤め口を見つけられるように日々頑張ろうと思います。

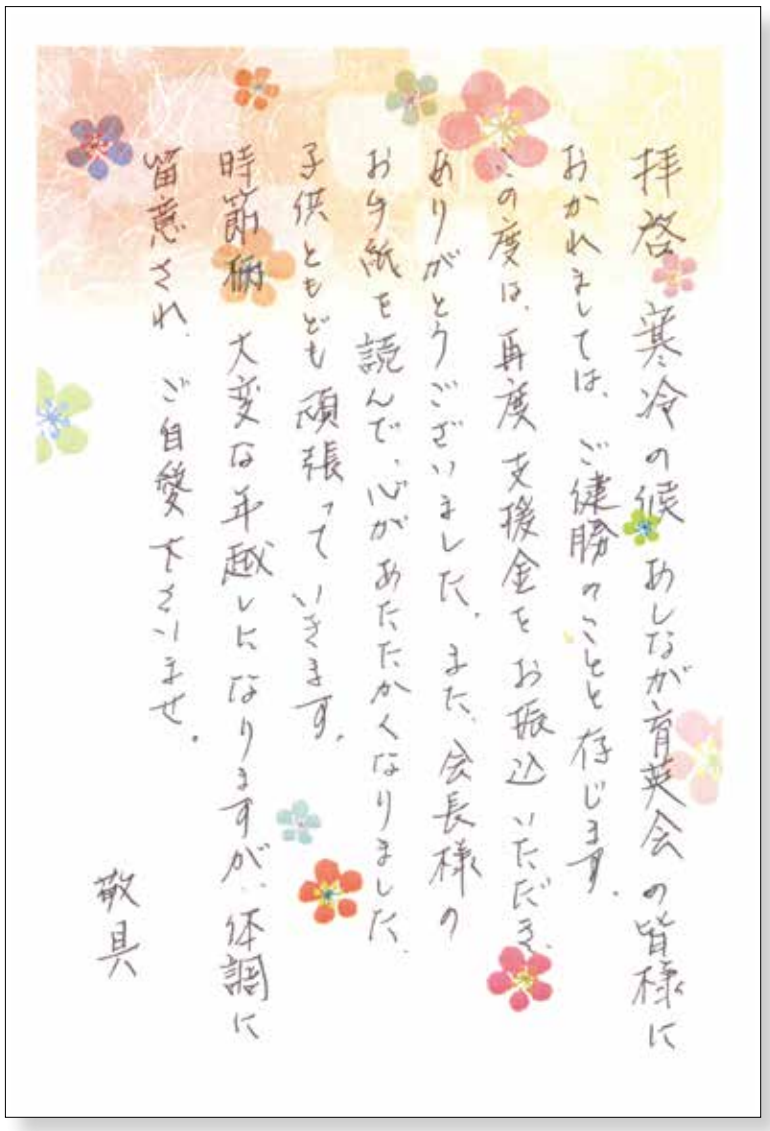
◆◆◆

年越し緊急支援金　奨学生家庭からお礼状

精神的に追いつめられていた私を救って下さいました


この度は「年越し緊急支援金」を送金頂き
心より感謝申し上げます
このコロナ過において家計状況は苦しくなり
お正月を迎える為のお金もありませんでした
今回、あしながさんからの封書を読み予想もしていなかった
送金に涙が止まりませんでした心から感謝しております
精神的に追いつめられていた私を救って下さり
本当にありがとうございました大切に使わせて頂きます


前略　ごめん下さいませ
この度は　あしなが様より　年越し緊急支援金の
ご給付　誠にありがとう御座居ました
会長様より　心あたたまる　お手紙を頂き
まして　本当に涙してしまいました
コロナ禍の中　長いトンネルの中より
抜け出せない様な思いがありましたが、本当に
明るく希望を持って　年越をしたいと
思います
春には大学生になる孫の為にも　まだ〳〵
元気で頑張って　参ります
メールがうまく入りませんで、つたないお手紙に
かえさせて頂きました。
御職員の皆様に感謝です


拝啓　寒冷の候　あしなが育英会の皆様に
おかれましては、ご健勝のことと存じます。
この度は、再度支援金をお振込いただき、
ありがとうございました。また、会長様の
お手紙を読んで、心があたたかくなりました。
子供ともども頑張っていきます。
時節柄　大変な年越しになりますが、体調に
留意され、ご自愛下さいませ。
敬具

◆◆◆

12月12日お手紙が届き、泣いてしまいました。
このところ本当に辛く、生きることを諦めたくなる気持ちと、子供たちが社会人になるまでは耐えようと自分を戒めながらスレスレで生きていました。そんなとき手紙を読んで、どっと涙が…。
「あなた方親子を全力で支えることを約束します」のお言葉…本当に感謝申し上げます。頑張ります！　ありがとうございました。

◆◆◆

この度は、年越しの特別支援をして頂き、何と御礼を申し上げて良いかわかりません。このご連絡を頂き、有難い感謝の思いで涙があふれました。
仕事もこの様な状況で、夜間か土日、早朝などにしぼられ、頼れるところもなく、日頃よりあしながさんのご支援がなければとても生活出来ず、感謝の気持ちで一杯でしたが、その上、年越しのご心配をして頂き、さらに追加の支給とは、本当に感謝の気持ちで一杯です。
経済的にはもちろんですが、精神的にも温かい気持ちを頂き、救われました。

◆◆◆

この度は多額のご支援をありがとうございます。わが家は大学生と高校生があしなが奨学金を利用させてもらっています。
毎月の奨学金に給付があり感謝しています。その上に今回の支援は驚きです。手紙を何度も読み返さずにはいられませんでした。子供たちも大変感謝し、喜んでおります。ありがとうございます。

◆◆◆

年越し緊急支援金　奨学生家庭からお礼状

先日は、臨時給付をくださり 本当にありがとうございました。
我が家は 母子家庭で、母の私も障害者という状態で
中々うまく子供に教えてあげられません。
仕事もなくなり、我慢させなければと思っていた所への
プレゼントに 飛び上がる程 嬉しくなりました。
クリスマスのケーキも、お正月の（寄せ集めですが）お節も
子供の期待に応えてあげられました。
残りは 家賃のために 大切に置いてありますが、
ギリギリの生活なので 大変助かりました。
本当に ありがとうございました。

今年は３年生になる時で、大事な事です。
善意で助けてくれる方達に感謝の気持ちを忘れないで
自分の学ぶべきものを懸命に打ち込める子に
なって欲しいと思い支えていきたいと思います。

あと一年 お世話になりますが、いただいた大切なお金は
無駄使いせず、２人で笑顔で 最低限生きていけるように
大事に使わせていただきます。
正式な便せんもなく失礼でしたら 申し訳ございません。
本当にありがとうございました。

私は、あしながが育英会で 支援を受けている
保護者です。 いつも励ましのお言葉や、
支援をしていただき、ありがとうございます。
又、この度は、緊急支援金も給付して
いただき、ありがとうございました。
お礼の言葉をどうしても伝えたくて、ハガキを
送らせていただきました。
我家は、2年前に主人が亡くなり、娘２人と
暮らしています。今、世間は、コロナで大変な
時期を迎えてますが、お陰様で、長女は
就職先も決まり、次女は看護学校に合格
することができました。
私も片親で２人の娘を育てるにあたり、大変な事、
辛い事 色々とありますが、あしながさんのあたたかい
言葉を胸に苦難を乗り越えていきたいと思います。本当にありがとうございました。
まだまだコロナで大変な時期ですが、皆様も
お身体には気を付けてお過ごし下さい。

いつもお世話になっております。
今回はご支援、本当に感謝しております。
子供にお肉をおなかいっぱい食べさせてやります。
本当にありがとうございます。
（母）
いつもお世話になっています
本当にありがとうございます
大事にします。
（娘）

子供にお肉をおなかいっぱい食べさせます

奨学生は夢をあきらめない

新型コロナのまん延はあしながの高校生・大学生の学校生活にも大きな影響を与えました。しかしそんな中でも、奨学生は勉強やクラブ活動などに前向きに取り組んでいます。彼らが心を込めて書いた「あしながさんへの年賀状」、工夫をこらしたイラスト、それぞれの日常を切り取った写真を7ページにわたってご紹介します。ぜひご覧ください。（8～14面）

年賀状・写真・イラスト 大特集

（専1＝専門学校1年、院2＝大学院2年、高専5＝高等専門学校5年）

藤井心音・東京・高2
コロナで3か月間オンライン授業。学校が再開した日にクラスのみんなとベランダから撮りました。久しぶりにみんなと会えてとてもうれしかったのを覚えています！（真ん中が私）

高1

あけましておめでとうございます。
私は吹奏楽部でテナーサックスを担当しています。今年はコロナの影響でコンクールが中止となりとても残念でしたが、十月に定期演奏会を行う事ができました。また、十二月にはアンサンブルコンテストがあり、私も出場する事になり、毎日練習に励んでいます。こうして好きな事に打ち込めるのもいつも温かく見守り支えてくださるあしながさんのおかげです。ありがとうございます。精一杯頑張ります。

大2

あけましておめでとうございます。
私は今、大学で公務員になるために試験勉強に励んでいます。あしながさんのおかげで、学校の勉強に励むことも、公務員試験合格を目指して勉強に打ち込むこともできるようになりました。体がとてもなってしまったときは、私の未来は断たれてしまったと感じましたが、今ではあしながさんのおかげで大学生活を楽しむことができています。本当にありがとうございます。

中村有伽・北海道・専2
私が振袖を着ている写真です。もう先が長くないと宣告され、私の振袖姿が見れないかもしれないという祖母に見せるために、自宅で着て撮影したものです

引地蒼杜・宮城・高3
男子ソフトボールの宮城県大会で優勝！　私は先取点のタイムリーヒットも打ちました。この後進むはずの東北大会、インターハイ、国体はコロナで中止。残念です（私は左）

奨学生から　年賀状・写真・イラスト 大特集

高3

私は今、将来「日本と世界をつなぐ」仕事に携わるために英語の勉強を頑張っています。大学では、国際系の学部で日本と他国それぞれの文化を学び、異文化理解を深めたいと思っています。特に、福祉の充実している北欧諸国について学びたいです。これからもあしながさんへの感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきます。

藤原幸呼・大阪・高２
資源動物科で酪農を学んでいます。自分が肥育した牛の出荷の１時間前の様子

鏡田純子・茨城・高３
高校のクラスマッチの時の記念撮影（後列左から２番目）

大2

大変な時期に一番の支えになったのはあしながさんの存在でした。感謝の気持ちでいっぱいです。そのため、いつか私もあしながさんのように遠方学生に寄付する立場になりあしながさんから頂いたご恩を後輩たちに繋げたいという思いが強くなりました。現在は大学で法律を学んでおり、今年はゼミで専門的な分野を研究するので今から楽しみです。より一層勉強と就活に努めてまいります。お身体に気をつけてお過ごしください。

大4

私の夢は、獣医師となり、人と動物の健康を守ることです。幼い頃からの夢を追い、実家からは離れた北海道の キャンパスで大学生活を送っています。11月には外科学の研究室に所属し、一匹でも多くの犬や猫を救えるように、勉強を続ける日々です。ひたむきに夢に向かってがんばれるのはあしながさんが支えてくださっているからです。ありがとうございます。

宮里鷹翔・沖縄・高専２
今年の高専ロボコン九州大会に２年生チームで参加し、表彰式で企業賞をいただいた時の写真です（自分は１番左）

小野美羽・秋田・高１
「癒し」

古川球英・千葉・高３
「コロナに負けないこれから」

西村奈乃佳・岡山・高１
「コロナの中ではじめての行事」

奨学生から　年賀状・写真・イラスト 大特集

橋本恵太・福島・高２
修学旅行で見た松島の夕焼け

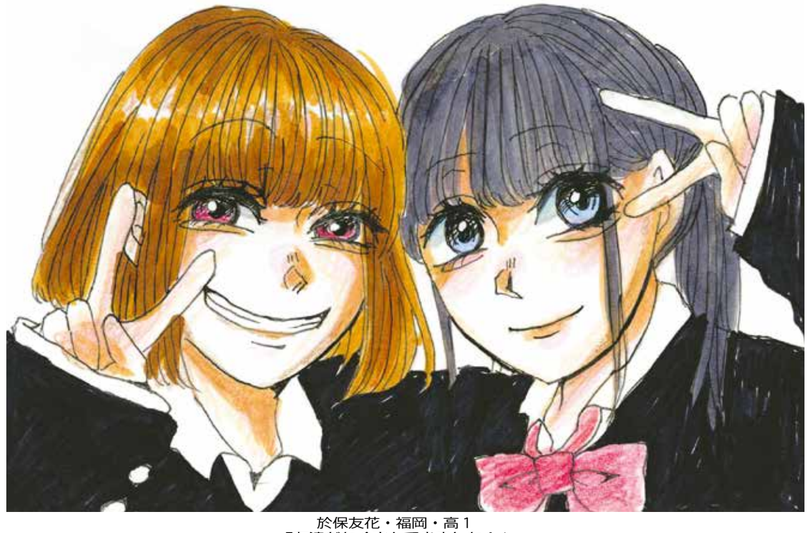
大4
私は今年大学を卒業する、国立学科の学生です。4年間で教員免許、司書など沢山の資格を取得することができました。学科の授業や書道部などの部活動にも参加でき、充実した大学生活を送ることができました。昨年はコロナ禍で苦しい一年でしたが、あしながさんのおかげで諦めることなく教育実習や卒論の執筆に専念できました。
4年間本当にありがとうございました。

高3
私は四月から幼い頃からの夢だった自衛隊に入隊します。現在、私が中心となり学校を通してコロナウイルス助け合い基金への募金活動を行う事で日々、友人と医療従事者の方々へエールを送っています。
今後もあしながさんへの感謝の気持ちを忘れず頑張っていきます。

八木橋渚月・青森・高２
私の誕生日に友達がサプライズをしてくれた

脇田なつみ・長崎・高３
誕生日に母と一緒にスイーツバイキングに行き、サプライズで出てきたケーキの写真。最高の誕生日をありがとう！

専2
私は人の日常を守りたいという思いから公務員を目指して専門学校で勉強し、無事就職を決めることができました。あしながさんからのご支援のおかげで今の私があります。心より感謝申し上げます。
感染症などまだまだ予断を許さない状況が続いておりますが、体調を崩されないよう何卒ご自愛ください。また、これからも私達を見守って頂けましたら幸いです。



於保友花・福岡・高１
「友達がたくさんできました！」

高専5
私は今、高専で建築を学んでいます。建築に関する勉強だけでなく、子育て環境に関する研究や中高生の活動支援施設でのアルバイトを通して、子どもや保護者の居場所について学んでいます。今年度が最後の学生生活になりますが、高専で充実した生活を送ることができたのは、あしながさんのおかげです。本当にありがとうございます。

柳本莉央・大阪・高３
遠足でＵＳＪ！

山田茉奈・青森・高３
球技大会のバドミントンで優勝した時の写真で、前列の真ん中にいます

大4
私は大学四年の薬学生です。薬剤師になるためにお薬に関する勉強や調剤、患者さんとの接しかたなどこれまで多くの事を学んできました。来年からは実際に病院や薬局へ実習に行き、実務的な事を学んできます。
あしながさんのおかげで今の私があります。どうかお身体にお気をつけてお過ごし下さい。

高2
僕は書道部に所属しています。昨年は、九州女子大の展覧会で一番上にあたる賞をいただけたり、全国大会選抜に選ばれたりなどすばらしい賞をたくさんいただきました。今年度の全国大会に向けて練習に励んでいます。
これからもあしながさんへの感謝の気持ちを持って日々がんばっていこうと思います。
見守っていてください

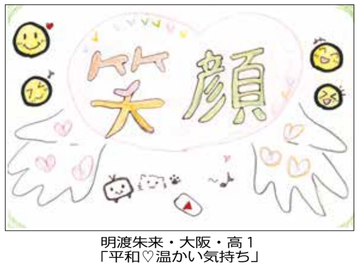
岡本空知・京都府・高３
トライアスロン実戦練習。
バイクからランへ

奥村智子・大阪・大４
「コロナに負けけず、毎日朝６時出勤！」
一週間のほとんどアルバイト先の喫茶店にいて、毎日来るお客さんがほとんどです。毎日来るということはコロナに負けず元気でいるということなので、いつもホッと安心してます。これからも元気でいてほしいと思います

芝　友沙・香川・高３
「仲間と頑張った３年間」

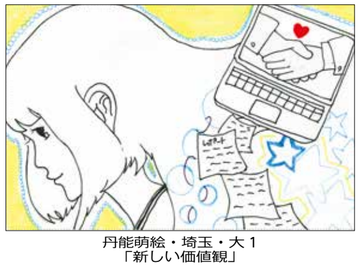
相良亜珠実・宮城・高１
「毎日楽しい」

藤井咲里菜・栃木・大１
「私の好きなもの」



明渡朱来・大阪・高１
「平和♡温かい気持ち」

羽場夏希・長野・高３
「文化祭の時に描いた絵」



丹能萌絵・埼玉・大１
「新しい価値観」

中村　晴・三重・高１
高校生になって初めての文化祭

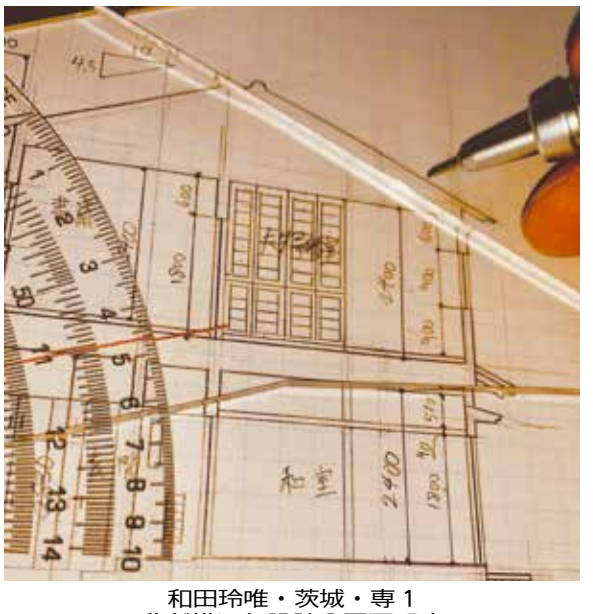
私は現在、発展途上国の問題について勉強しています。将来は世界中の子どもが平等は教育を受けれるようにしたいと思っています。毎日、勉学に励むことができとても楽しいです。去八実した日々をおくることができているのは、支えてくださるあしながさんのおかげです。

大2

永見隼人・兵庫・大１
友達３人と登山。登った時の達成感と山頂の空気、
山頂で飲むコーヒーは最高でした（自分は１番左）

私は音楽部に所属しています。担当楽器はホルンです。今は、12月にあるアンサンブルコンテストやクリスマスコンサートに向けて、日々練習しています。丁度、期末テスト期間で、部活も学業も忙しく目が回るような思いですが、何とか乗り越えていきたいと思います。一年がたつのは早く、もう三年生になります。今は目の前のことでいっぱいいっぱいですが、自分の将来についても考えていきたいと思います。

高2

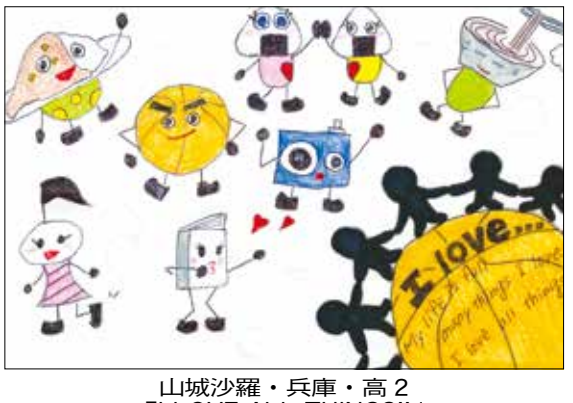


和田玲唯・茨城・専１
私が描いた設計の図面です

私は昼間にホテルでアルバイトをし、夜は大学の夜間主で経済の勉強をしています。私は小さい頃から客室乗務員になる夢があり、最近は検定や英語の勉強をしています。この御時世ですぐに夢を実現することは難しいですがいつか叶えられる日が来るまで頑張りたいと思っています。あしながさんの お陰で、希望が持てています。支えて下さり、本当にありがとうございます。

大3

細川ひなた・兵庫・高３
「私のコロナ対策」



山城沙羅・兵庫・高２
「I LOVE ALL THINGS!!」

照屋真白・沖縄・大２
「図書館に住みたい」

奨学生から　年賀状・写真・イラスト 大特集

大道凱斗・北海道・高１
虹を見て、未来へ進もう

高3

私は今高校三年生で将来食料不足で苦しむ人の為に安定して農作物を生産出来る土壌作りをする研究者になる為に日々受験勉強に励んでいます。将来の夢を持て学校生活を送れているのはあしながさんのお陰です。これからも感謝の気持ちを忘れず全力で頑張ります。

松鶴れいら・石川・高１
初めて食べた大きなパフェ

大2

私は今、アメリカの大学院へ進むため必死に勉強をしています。そして、将来は国連に勤めたいと考えています。私は人種や民族エが原因の差別問題にとても関心があります。この令和の時代はこれらの問題が解決に向かう過渡期だと思います。全ての人が同じ権利を持ち生きていける世界になる手助けがしたいです。あしながさんの支援があるからこの夢をもつことができました。本当にありがとうございます。

峪田渚美・岡山・専２
今年の６月に姪っ子が生まれました

高3

僕はイラストレーターになるために絵の練習をしていて、美術の専門学校を志望しています。入試が11月にあるので、このお手紙が届く頃には合否が出ていると思います。僕が専門学校を受験できるのはあしながさんのおかげです。とても感謝しています。あしながさんに良い報告ができるよう面接練習頑張ります。

大林彩乃・奈良・高専５
「大好きな小物です」

武内はな・福井・高２
「私と蜜柑の物語はまだ未完」

中村有伽・北海道・専２
「絵を描くことが好きで
今年はたくさん描きました」

奨学生から　年賀状・写真・イラスト 大特集

鈴木幸翔・岡山・高 3
ふっと空を見上げた時、雲の中から青空のハート形が。
亡き母が頑張れよと言ってくれてるようで…

高3

私は今、残りわずかな学校生活を楽しんでいます。コロナの影響で行事がなくなり、交流が減ったけど、一日一日を大切に友達と沢山思い出を作りたいです。
四月からは、医療関係の専門学校に進学します。大変なこともあると思うけど、立派な医療従事者になれるように頑張りますので、これからも私たちを見守っていてください。

佐藤　葵・大阪・高 2
演劇の地区大会に向けて、現場でリハーサルを行っている写真です。舞台上にマスクを着けたまま立つのは、今年が初めてだと思います。2020 年、コロナだから生まれた写真だと思います

院2

私は今、大学院で建築の研究をしていますが、学生生活も残り3ヶ月程で終りを迎えます。大学3年時からこれまで千年間、あしながさんのお陰で好きな勉強を続けることができました。今春からは外務省で働きます。あしながさんから受けたご恩は、国のために尽くして、次の世代へ伝えています。
今まで本当にありがとうございました。

西﨑太河・愛媛・高 2
ラグビー部の花園予選での試合。タックルをしているのが自分。相手は格上で点差は 139 対 5 で全然勝てる試合ではなかったですが、試合後の相手高校のコメントに「魂を込めてタックルしてくる相手には手を抜けない」と書かれていたのは逆にうれしかった

高2

私は今年の春には高校二年生になります。今年はラグビー部と専攻の福祉科の勉強を両立させて悔いのない最後の高校生活となる様に目標を立てました。卒業をしたら介護福祉士の資格をとり、その仕事をするつもりです。
あしながさんは私にその夢や目標を与えてくれました。感謝しています。
私もいつか、あなたの様に人に与える事の出来る人間になれる様に頑張ります。

川崎愛乃・宮崎・高 1
「がんばろう !!」

及川来海・鹿児島・高 1
「今年の思い出」

吉岡美月・神奈川・高 1
「いつもありがとうございます !」

同級生のバースデーでピースサイン（左端）

「留学生と日本人、2つのグループをつなげて交流させたい」

ウガンダ出身のルベガ・ニコラス君（19）が、昨年9月に都城東高等学校（宮崎県三股町）の生徒会長に選ばれた。同校では留学生が生徒会に入るのは初めて。

「使える英語を身につける」をスローガンにグローバル教育に力を入れている都城東高校では、現在ニコラス君以外にも20人ほどのフィリピン人留学生を受け入れている。

「学校では、言葉の壁の問題で、日本人と留学生があまり話さない」

ウガンダ出身奨学生　生徒会長で活躍

「留学生と日本人つなげたい」

日本人と外国人の交流をうったえた選挙ポスター

ニコラス君も来日した当初は日本語ができず、日本人と話さなかった。授業にもついていけず、大変な思いをしたという。しかし、日本語を毎日6時間勉強した結果、やっと成果が出るようになった。2年目から語学が上達し、参加者が日本人のみだった授業を受けるようになり、多くの友人もできた。

学校をよくしたい

「国籍に関係なくお互いが交流できるイベントや、英語の部活に参加する日本人の人数を増やしたい。そして、日本人であっても外国人であっても、一人ひとりが自分の意見を持ち、学校生活を作れるようにしたい」

生徒会長に立候補したきっかけは、ある留学生の「やさしくて日本語が上手なあなただったら、私たちの代表としてふさわしい」という言葉だった。ニコラス君は学校と生徒間のコミュニケーションを良くしたいと思い始め、生徒会長に立候補した。

教育の大切さは母から

9歳のときに交通事故で父親を亡くしたニコラス君は、2013年にウガンダのレインボーハウスに通い始めた。その2年後、あしなが育英会の現地奨学金を受け、地元から離れたウガンダの一流中学に入学し、下宿していた。

「母は私たちを絶対に学校に行かせたかった。食べ物より教育。僕も夕飯が紅茶だけでも文句は言わなかった」

休みの日には地元に帰り、現地の友達にも毎日勉強を教えていた。

「貧しい家庭で、いつも食べ物に困っていた。一方で、捨てるほど食べ物がある人もいた。将来は平等な国を作りたいと決心した」

この子供時代の思いをきっかけに、ウガンダのリーダーになることを目指した。そして、あしなが育英会を通して関心を持った日本で、一流の教育を学ぶことを決心した。

留学生ではなく一生徒

本会にはウガンダとセネガルの遺児学生を対象にした日本の高校への留学制度がある。ニコラス君はこの留学制度に選抜され、2019年5月に都城東高校へ進学した。

「入学当初は見た目のせいで僕を怖がっていた生徒もいたけれど、時間が経つにつれて受け入れてくれた」

みんな今では、彼やウガンダについて好奇心を持って接してくれているという。留学したことで、勉強だけでなく好きなことも発見できた。「今までギターやピアノを弾く機会があるとは思わなかった。楽器以外でもたくさんのことを経験できている」。

都城市のことも大好きになった。「山、川と公園に囲まれて、人もすごく優しいし、とても綺麗な所」。

ニコラス君の担任の先生は「彼の頑張りが認められたんだと思います。留学生という肩書ではなく、都城東高校の一生徒として学校を引っ張っていくリーダーになってほしい」と期待を語った。

ニコラス君は選挙の翌日からさっそく生徒会長の仕事を始め、これまで文化祭や校内クラスマッチの運営などを行ってきた。

大統領という夢

今年から大学受験に取り組む。航空宇宙工学を勉強したいという。「大統領になるための専攻はないから」と笑いながら希望の学科を語った。

「夢はウガンダの大統領。国の状況はすべてそのリーダー次第だと信じている」

（バリシェフスカ・ボグナ記者）

ワクチン接種

1月30日、新型コロナのワクチンを接種しました。もっと先に受けるべき人がいるのにという罪悪感、副作用に対する心配の念とが寸前まで錯綜していました。が、終わってみて、内心ほっとしています。アメリカでは感染者数は2500万人、死者数は49万人に上っています。昨年12月14日から医療従事者、高齢者への接種が始まり、すでに1650万人が接種を受けています。まだ人口の7・6％にすぎません。

私が接種したのはロサンゼルス・ドジャース球場の駐車場でドライブスルー方式でした。終えて帰ろうとしたとき、入り口に50人ぐらいのデモ隊が「接種やめろ」「モルモットになるな」と気勢を上げていました。バイデン大統領は就任100日目までに1億人の接種を公約しています。

「分裂と対立のアメリカ」。それでも先が見えない明日に向けてリーダーは躊躇せずに前に進む。そこがこの国の、この国たるゆえんです。

人事

〈採用〉

【10月～2月】鈴木　慈　心のケア事業部・東北レインボーハウス（仙台）、森本小夏　会長室、ニコラス・カーター　アフリカ事業部・100年構想第2課、ジョージ・アンプラチュム／ヤスミン・エラディブ／アニタ・マルフォ　以上3名同部・同第3課、堀江真弥　学生事業部・リーダー育成課、ロナルド・ルベガ　同部・あしなが心塾（東京）、大島　暁　マーケティング部、加納尚子　管理部・返還課

〈異動〉

【10月1日】田村早希　日本学生支援機構出向

あゆみ

11月30日　奨学生とその保護者対象の「コロナの影響　遺児家庭アンケート」調査結果と、全奨学生7600人に今年2度目の「緊急支援金」（20万円）給付に関する記者発表

心より応援している者が、ここにいます

あしながさんからの応援メッセージ

お手紙やハガキ、メール、寄付申し込み手続きのときの添え書き……。あしなが育英会の奨学生たちを温かく見守り、ご支援してくださるあしながさんは、さまざまな方法で奨学生とその家族に応援のメッセージを送ってくれます。心のこもった「励ましの言葉」をご紹介します。

今日は。
今日郵便局から送金いたしました。
三年前長男が心臓発作の為五十八才でさくなりました。
あまり突然の事にどうして、どうして、と毎日く同じ事を
考えたら過して居りました。
昨年八月に三回忌を済ませたのですが仲々前向きになれず
コロナの事もあり家に閉じこもっていました。
そんな時新聞で育英会の御頭募金が出来なくなった事、
玉井会長さんが「君達にはあしながさんがついている」と云われ
支援された事を知りました。
毎年三越の前で募金をしていた先生や生徒さんの姿となつかしく
想い出しました。
早速孫娘に資料の取り寄せを頼み、お正月に単身赴任
している次男が帰りましたので相談し寄はを決めました。
「兄ちゃん、遺してくれた大事なお金は顔も知らない遺児さん
達のお役に立ててもらうよ」と仏前に報告し私の胸のつ
かえもかゝし軽くなった様に思いました。
苦労は多いと思いますが必ず生きてゆく力になります。
コロナの終息が見えない中、身体に充分気をつけてお過し下さい。

令和三年一月十八日

あしなが奨学生の皆さへ

◆◆◆

あしながファミリー167号を拝見しました。2ページ目の『消えたいなんて言わないで』の「最後に頼るものはわたしの生命保険」の言葉に胸がつまりました。私は15年前に夫をガンで亡くし、ひとりで息子を育てました。息子は今や社会人となり、経済的にも心配事はなくなりましたが、ひとりで育てている最中は幾度となく自分の生命保険が頭をよぎりました。その記憶がよみがえり、いても立ってもいられなくなりました。本当に微力ながら、継続の支援を申し込みます。ひとり親のつらさは、身に染みて分かります。どうかどうか、今をがんばっているみなさまへ、心より応援している者がいることをお伝えいただけますと幸いです。　（神奈川県）

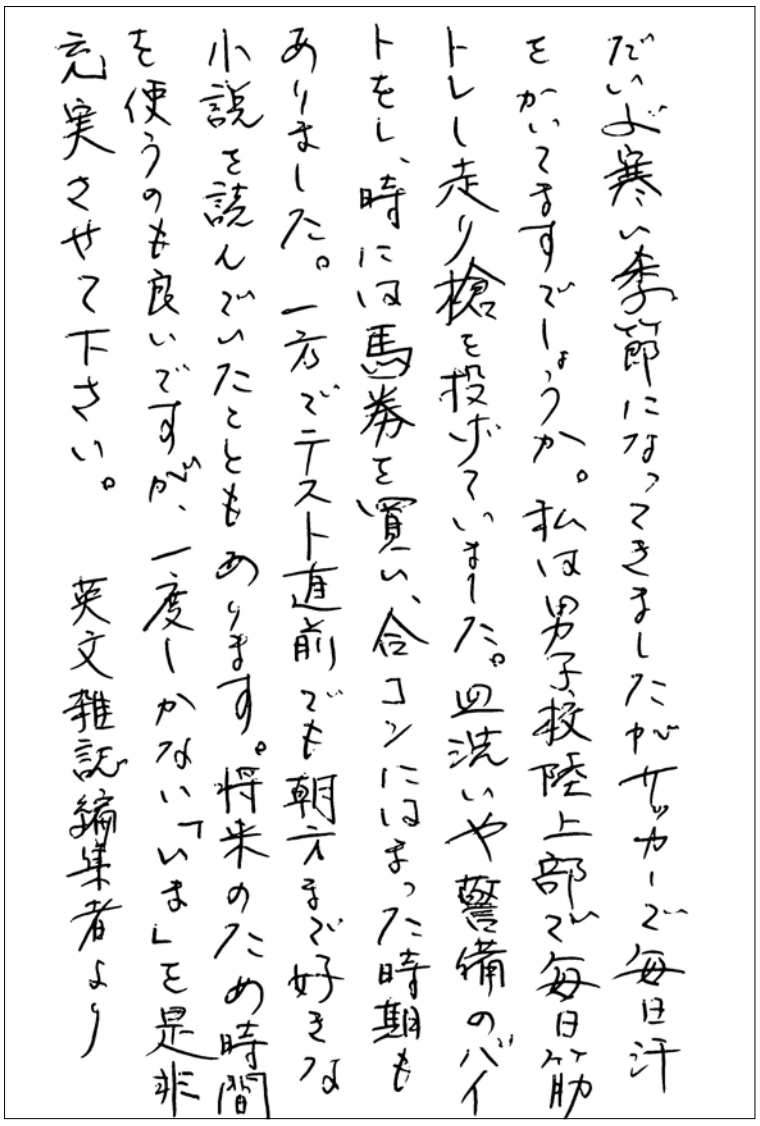
◆◆◆

私には願っていても子供ができませんでした。だからこそ、親になれた方、子として生まれてきた方々の奇跡を、絶望に変えて欲しくないのです。そのために、少しばかりのお手伝いをさせていただきたいです。抗えないような大きな力が押し寄せてくる時、同時に修復する力も働くのが自然の摂理だと思っています。このコロナ禍にも修復、そして再生の時期が必ずやってきます。どうか、希望を持って再生の時を待ちましょう。　（東京都・40代女性）

◆◆◆

イラスト・天野聡美

困った時は困ったと、声をあげてください



だいぶ寒い季節になってきましたがサッカーで毎日汗をかいてますでしょうか。私は男子校陸上部で毎日筋トレし走り槍を投げていました。四浪いや警備のバイトをし、時には馬券を買い、合コンにはまった時期もありました。一方でテスト直前でも朝方まで好きな小説を読んでいたこともあります。将来のため時間を使うのも良いですが、一度しかない「いま」を是非充実させて下さい。

英文雑誌編集者より

日ごとに寒さが増しておりますが変わりなくお過ごしのことと思います。今夏にはご丁寧なお便りをいただきましてありがとうございました。

横山さんが目標に向かって進み続けていることを知りとても嬉しく思いました。私自身、母子家庭で育ち高校生の頃は奨学金とバイトをかけもちしていました。今は4人の子に恵まれ、働きながら忙しい日々を送っています。

今年は例年にないほどの大変な年となっていますが、横山さんの頑張りとご治療を応援しています。

自分も家庭の経済状況で、大学に行けるかどうか高校３年生まで本当に悩んでいました。幸いにも地元の奨学金のおかげで、大学に進学し、今はアメリカで航空業界で働くことができています。

日本に帰国した際に、街頭で募金活動をしている皆さんを見て、自分自身の初心を思い出すことができて、改めて感謝し、寄付活動を再開しました。

今のように、厳しい環境に置かれるからこそ、逆境に耐え、それを乗り越える過程で、より一層精神的に強くなり、人一倍努力するようになる、というポジティブな面も絶対あると思います。皆さんの心は傷ついているかもしれないけれど、だからと言って夢や希望を諦めないで下さい。今こそ踏ん張ってください。

私が働く航空業界も今は未曾有の危機にありますが、逆境こそ未来への好機とポジティブに発想を転換し、再生を信じて踏ん張っています。

一緒に頑張りましょう！　皆さんが羽ばたく、夢と未来を誰よりも信じています！

（海外・40代男性）

困った時は困ったと、声をあげてください。今は声をあげることすら難しかったり、叫んでも助けてもらえず絶望しそうになることもあるかもしれません。でも諦めないで声をあげてください。それからどんな環境にいても学ぶことを諦めないで。今の環境を変えられる最も大きな力は教育です。学校に行けなくなったとしても希望を捨てず、学び続けて下さい。こんなことしか言えなくて無力で申し訳なく思います。でもどんな状況でもあなた一人だけではないことを忘れないで下さい。　（東京都・50代男性）

あしながさん歴、約12年です。今回送っていただいたあしながファミリー167号を読み、励ましの言葉を送りたくて筆をとりました。毎回拝読していますが、こんなに切ない紙面を読むのは初めてでした。私は片親ではありませんでしたが、ツラい学生時代を過ごしてきました。投げだしたいことも多い日々が長く続きました。誰にも話せず、誰に助けを求めていいかわからない中で、どんなにツラくても『せめて自分の心は温かく豊かであろう』と言い聞かせてきました。ココロの中まで厳しい現実に侵食されないぞと頑張ってきました。頑張ってきた経験、ツラい経験も、人生の肥やしになる時がきます。あきらめず少し前、少し上を向いて頑張ってください。あしながさんは皆さんを応援していきます！　（東京都・50代女性）

コロナ禍の影響は弱者なほど大きい、という認識はありましたが、紙面から見える切迫感は私の想像を遙かに超えていました。

私も10代のうちに両親を病気、事故により立て続けに亡くしましたが、お陰様で好きな仕事で自立できるキャリアを築くことができ、今は恵まれた幸せな生活を送らせてもらっています。親がいない、金銭的に恵まれない、という心細さや不安定さは若いうちにはなかなか自力で補えないことが多いと思います。私が数十年間、ささやかながら募金を続けているのもその状況が分かるからですが、コロナの影響の大きさは全く未曾有のものなのだと新たな気づきを頂きました。

遺児を育てる保護者の方々もどうか食べるものを我慢せず、ご自身の体と心に少しでも安らぎを与えてあげて下さい。私も少し募金額を増やしていこうと思います。全国でそんなあしながさんが増えると思いますよ！　来年はきっと暗いトンネルから抜け出せますので、互いに希望を忘れずに毎日を過ごしていきましょう。小さな力ですが、少しでもお役に立てれば幸いです。

（愛知県・50代女性）

阪神・淡路大震災から26年

阪神・淡路大震災から26年。神戸レインボーハウスでは、「0歳の子どもたちが20歳になるまで」を合言葉に、震災遺児への心のケアを継続してきた。2015年までは毎年、犠牲になった遺児家族を追悼する「偲び話しあう会」を開催し、悲しみを分かち合っていた。子どもたちは全員成人し、2016年からは東北の津波遺児家庭と「追悼と交流のつどい」、2019年からは「想いを明日へつなぐ会」としてさらに5年間、震災発生の1月17日前後に、震災遺児の交流の機会を持った。

本年は、新型コロナウイルスの緊急事態宣言により「想いを明日へつなぐ会」は中止となったが、震災遺児家庭からメッセージが寄せられた。

「あれから26年。この1年はコロナで大変な日々をみなさんも送られていたと思います。少しでも早く元の生活に戻れることを願いたいですね。コロナに負けずに、お互いに頑張りましょう」（震災遺児）

「震災の経験が風化しないように、若い方々にあの惨事を伝え続けていって欲しいと思います」（保護者）

中日新聞　1月17日

私だから励ませる

母亡くした26歳 東日本の遺児と交流

㊤母子手帳を手にする浦田楓香さん
㊦生後間もないころの楓香さんと母智美さんの写真。母子手帳には手書きのメッセージが残る
＝いずれも神奈川県座間市で（佐藤春彦撮影）

強い揺れも母の面影も、記憶にない。それでも「震災」と向き合う―。神戸市出身で、東京都内のアパレル販売会社に勤める浦田楓香さん(二六)＝神奈川県座間市＝は生後四カ月のとき、阪神大震災で母を亡くした。大人になり、東日本大震災で親を失った子どもたちと交流を続けている。「自分がいろんな人に支えられたように、自分にできることをしたい」

二〇一九年十一月、浦田さんは仙台市を訪れた。東日本大震災の遺児らをケアするあしなが育英会の施設「仙台レインボーハウス」。現地の子どもたちと、親を亡くした思いなどを語り合った。

東日本大震災が起きたのは浦田さんが高校生の時。育英会に誘われ、短大生のころから毎年のように現地を訪れ、遺児らと向き合ってきた。短大卒業後五カ月間は、「被災地を知りたい」と宮城県南三陸町の水産加工会社で働いた。

レインボーハウスでの交流ではいつも、子どもたちに感心する。ポツリ、ポツリとだけど、亡き家族への思いを自分の言葉で話すから。「すごく勇気があるなって」。一方で「阪神大震災の記憶がない自分が役に立てるのか」と悩んだこともあったが、ある時、幼児を連れた母親からこう言われた。「こんなにたくましく育ってくれるのね」。大人になった自分の姿を見せることで、だれかを励ますことができる―。

二十六年前、神戸の自宅アパートは全壊し、母の智美さん＝当時(二七)＝は亡くなった。浦田さんは母方の祖父母に引き取られた。まだ若かった父親はやがて、姿を見せなくなった。祖母の明美さんは当初、自分が母親で、亡くなった智美さんは「地震で亡くなった姉のともちゃん」と語っていた。小学三年で事実を告げられたが、ピンと来なかった。

ただ、亡き母の愛情は遺品の母子手帳で分かる。名前の候補がいくつも書かれ、風邪をひいた時に心配する気持ちがつづられた。

震災八日前の一九九五年一月九日の記述が最後。娘の頭にできたただんこぶを気にし、こう書いてあった。「いたいよね。ごめんね」

育英会が神戸で運営する「神戸レインボーハウス」には幼い頃から通い、同じ立場の子や若い職員と遊んだ。時折、大人をたたき、ぬいぐるみを投げつけた。「気付かないうちに気持ちを発散していたのかも」。みな、そのままの自分を受け止めてくれた。

コロナ禍で迎えた一月十七日。母の名が銘板に刻まれた神戸市の東遊園地には今年は行けない。東日本の被災地に行くのも今は難しいが、環境が許せば、また子どもたちと向き合うつもりだ。「自分だからできることがきっとある。使命だと思っています」（横井武昭）

震災による遺児と孤児　厚生労働省によると、東日本大震災では2019年3月現在で、震災で両親とも亡くなった（行方不明を含む）「孤児」は243人、一方の親が亡くなった（同）「遺児」は1554人。あしなが育英会の調査によると、阪神大震災では、両親または一方の親を亡くした子どもは573人。

NHK 総合で神戸レインボーハウスが紹介されました

NHK 神戸放送局が制作した１分間の企画番組「あの日を胸に」が、関西地区及び全国で合計９回放送されました。番組では神戸レインボーハウスのこれまでの活動について、本会職員の語りによって説明されています。放送内容は NHK のホームページでもご覧いただけます。
https://www.nhk.or.jp/kobe/shinsai26/lower/from-day03.html

NHK ワールドで紹介されました

NHK ワールド（海外向け放送）のインタビュー番組「ダイレクト・トーク」に、本会会長玉井がゲスト出演しました。（右）

「Giving Back to Society: Tamai Yoshiomi」（玉井義臣：社会への恩返し）をテーマに１月26・27日、160か国に英語で配信され、あしなが運動の原点となった玉井の母との死別や、遺児家庭への支援活動の歴史などが取り上げられました。映像は来年１月まで、NHK ワールドのウェブサイトからご視聴いただけます。
https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/tv/directtalk/20210126/2058731/

ご寄付について

クレジットカード、コンビニエンスストアからもご送金いただけます。
詳しくはウェブサイト
https://www.ashinaga.org/support/
またはあしなが育英会寄付課（supporter@ashinaga.org）まで

Yahoo! ネット募金からもご寄付いただけます
https://donation.yahoo.co.jp/detail/1379001/
Tポイントを使って１ポイントからご支援いただけます

ご寄付・郵便振替口座

1. 00140-1-541731　あしなが育英会
   あしなが育英会の活動全般
2. 00180-0-15595　あしなが育英会あしながさん奨学金係
   国内遺児の教育支援事業
3. 00140-6-98241　虹のかけはし会員
   国内遺児の心のケア事業
4. 00130-7-776732　あしなが東日本大震災遺児支援募金
   東日本大震災遺児支援事業
5. 00150-3-734125　あしながアフリカ遺児教育支援
   アフリカ遺児の教育支援事業

喪失と癒し　2つの物語

この冬、あしながが育英会は「喪失と癒し」をめぐるふたつの書籍を世に出します。1冊は本会会長・玉井の著書『愛してくれてありがとう』。29歳で病死した妻と過ごした闘病の日々の記録です。愛する人を遺して先に逝く側と、看取る側。それぞれの葛藤が切実な言葉でつづられています。

もう1冊は、東日本大震災遺児の作文集『お空から、ちゃんと見ててね。』。「3・11」から10年が経過する今年、震災・津波遺児たちの「心の軌跡」を形にのこしたいという想いで編集しました。震災後まもない時期に書かれた作文に加え、現在18～24歳に成長した彼らが10年間を振り返ったインタビューや手記、大切な人へのお手紙などを収録しています。ぜひ併せてお読みください。

「愛してくれてありがとう」より

がんを告知されて死の恐怖と闘っていたのに、病状は真綿で首を絞めるように、しかも残酷に進んでいたのに、私にも、周囲にも笑顔で逆に気配りをし、最期に「ありがとう」を遺して逝きました。

「凛として生きる」のが、由美の美学でした。由美と私は、お互いから「愛」と「生老病死」を味わい、知りました。至福の出会いでした。由美は私にとって女神であり、結果的には人生の師でした。

◇

由美と二人三脚での闘病の日々、励ましてくれたのは、遺児のために奨学金を定期的に寄付してくださる全国の「あしながさん」たちである。私は機関紙のコラムで、看病日誌を数行ずつ綴った。みんなこの短い文を恐るおそる読み、気遣ってくださった。

その後、由美の死を知った「あしながさん」たちから、心のこもった弔意と暖かい励ましのお便りをいただいた。心身共に弱ったとき、かけられた「やさしさ」は、心にも身体にもしみわたる。本当に感謝しかない。ようやく私は再始動し、由美を奪ったがんに対して宣戦布告した。

「お空から、ちゃんと見ててね。」より

第1章「津波が来るなんて」から

おかあさんがいたら、いろんなことができたね。
ケーキをつくったりできたよね。
ほいくえんからかえると、
おかあさんがつくってたべさせてくれたね。
3月10日までは、いい日だったね。
3月11日のごご2時46分に、
つなみがおしよせてきました。
わたしと、おとうさんと、おじいちゃんと、
おじいちゃんのおねえさんのさとみさんも
だいじょうぶだったけど、
おかあさんは、つなみにながされて、
おかあさんのしごとばのまえで死んでいました。
わたしは、そのことをわすれないようにしたいと
おもいます。

（2012年11月　Y・A）

◇

第4章「人生を好きでいたい」から

震災がなかったら、今の私はいません。「父が死んだから」「震災遺児だから」こそ、私には私の人生があります。楽しいことばかりではないけど、できるだけ毎日楽しく生きようと努力しています。落ちた気持ちを上げるために、一生懸命できることをやっています。人生を好きでいたいと思っています。

24という自分の歳に少し驚いていますが（いつの間にか大人になっていた）、年を取ることに対して嬉しく思うし、父のように何かが起こらない限り、まだまだ生きていろんな世界を見られるということがとても嬉しいです。できるだけたくさん生きたいといつも思います。生には必ず死があるということ、それをだんだんと理解できるようになってから、ずっと気持ちが楽になりました。

（2020年12月　K・R）

『愛してくれてありがとう』玉井義臣・著　藤原書店　2020/12/15 発売
『お空から、ちゃんと見ててね。』あしなが育英会・編　朝日新聞出版　2021/2/19 発売

お求めは全国の書店、
またはインターネット書店へ

おかあさん

大阪府
土肥（どひ）　信代（のぶよ）さん（53）

2人の子ども養うため働きながら猛勉強

娘の卒業、亡き夫に報告

信代さん（左）の大切にしている言葉は「感謝」。「ちゃんとありがとうって言った？　が母の口癖でした」とくるみさん（右）

「夫とは駆け落ちだったんです」。土肥信代さんは、少し恥ずかしそうに笑った。夫の尭（あきお）さんとは23年の年の差婚。尭さんは看板職人で、兵庫県尼崎市で小さな看板屋を2人で切り盛りしていた。2人の子宝にも恵まれ、本当に幸せな毎日だったと信代さんは懐かしむ。

しかしそんな幸せも長くは続かなかった。2002年、家族4人で宮崎旅行に向かう道中、ハンドルを握っていた尭さんが苦しみだした。これはおかしいとすぐに引き返し、病院へと向かった。

検査の結果は、ステージⅢの肺がん。突然の闘病生活が始まった。抗がん剤の副作用で髪は抜け落ち、痛みに苦しむ夫を、自転車に2人の娘を乗せて見舞いに通う日々が続いた。

そして1年半後の2003年10月30日、夫婦の6回目の結婚記念日に、尭さんは天国へと旅立った。享年59。娘たちはまだ5歳と4歳だった。あまりに早すぎる別れに、家中の時が止まった。

泣いてばかりはいられぬと

子どもたちを大人にするためには武器が必要だ。信代さんは尭さんの死後、仕事につながるような資格勉強を始めた。日中はフルタイムで働き、家に帰ると家事に育児。さらにその後、一日2時間机に向かうという毎日だった。キャリアカウンセラーやファイナンシャル・プランナー2級、一種外務員など、これまでに取得した資格は20にも及ぶというから驚きである。

そんな信代さんの学び続ける姿を、子どもたちはちゃんと見ていた。長女のくるみさん（22）は、「お母さんが家でいつも勉強をしていたから、自然と自分も勉強をする習慣がつきました」と振り返る。

くるみさんは高校時代、土日はおろか盆や正月もなく、365日毎日学校に通った。電車代を節約するために、往復2時間も自転車を漕いだという。朝6時半から夜8時まで学校で学び、家に帰るとまた勉強。信代さんも毎朝5時に起き、愛娘のために弁当を作った。

そして2017年、本人の超人的な努力と、信代さんの献身的な支えの甲斐あって、くるみさんは超難関の大阪大学外国語学部に見事合格した。さらには「実家にいては、自分は甘えてしまう。国際的な環境で学び、自分を鍛えたい」と、本会の学生寮虹の心塾（神戸市）に入塾した。大学へは実家からも通うことができたが、あえて心塾で自らを成長させるという道を選んだのだ。信代さんのもとを巣立ち、大学と心塾という2つの学び舎での研鑽の日々が始まった。

苦労の末つかみ得た幸せ

親の背中を見て子は育つ。こんなにもこの言葉がしっくりくる母娘はなかなかいないだろう。

2020年10月、記者が取材に訪れた大阪市内のご自宅には、信代さんと大学4年生になったくるみさんの姿があった。

信代さんは現在、証券会社のお客様相談室で働いている。これまでの6年間は派遣会社からの出向という形だったが、今年5月からは直接雇用の正社員に登用された。今までの頑張りと保有資格が評価されたのである。

「実は来月も資格を受験するんです」と、信代さんは分厚い参考書を手にした。ファイナンシャル・プランナーの上位資格であるCFPの合格を目指し、日々勉強に励んでいるという。参考書にはたくさんの書き込みがされていた。信代さんの学びは止まらない。

一方のくるみさんは、この春大学と心塾を卒業する。心塾の共同生活の中での先輩や同期、後輩、留学生との関わり合いから、責任感や相互理解の大切さを学んだと振り返る。そして4月から大手人材系企業で働く。コロナ禍で就活市場が冷え込む中、内定を勝ち取った。配属先は第一希望だった首都圏の事業所だ。「本当によかったね」と信代さんは微笑みかける。尭さんの死から17年。そこには幸せそうな母娘の、よく似た笑顔が並んでいた。

「人生100年時代」と呼ばれるこれからの時代においては、学び続けることが最も大切であると言われている。なぜ学び続けることが重要なのか。その答えを、机に向かう信代さんの背中が教えてくれた。

（島田北斗記者）

ご自宅の壁には、尭さんとくるみさん（当時1歳半）の写真が飾られていた

「奨学生家庭への励ましの言葉」「あしながさんへのお礼の言葉」を募集しています

右のQRコードまたはURLにアクセスし、メッセージをお寄せください。https://forms.gle/yMkk462Db1GYrugc6

お問い合わせ　機関紙の紙面については**「編集室」**（family@ashinaga.org）、ご寄付に関するお問い合わせは**「寄付課」**（supporter@ashinaga.org）、奨学金の利用については**「奨学課」**（shougaku@ashinaga.org）、返還については**「返還課」**（henkan@ashinaga.org）までお願いいたします